

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和8年度学校評価 計画

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	唐津市立鬼塚中学校
1 前年度 評価結果の概要	・学力向上については、単元のゴールを意識した授業づくりを約90%の職員が実践できており、教職員の意識向上が見られる。今年度は「家庭学習の充実」を目標に、全学年で「学び方講座」を実施し、家庭学習の取り組み方やテスト結果の可視化の必要性について学び、生徒自身が学習への姿勢を見直す機会をもつことができた。現時点では家庭学習の大きな変化や課題提出率の大幅な向上には至っていないが、来年度も継続し、さらなる充実を図っていくことが必要である。 ・不登校対策については、不登校数の減少には至らなかったものの、隔週で教育相談部会を開催し、不登校生徒や気になる生徒に関する情報共有を行い、外部機関との連携を進めることができた。来年度は、今年度の取組と課題を踏まえ、部会や職員研修のもち方や内容について一層の工夫を図っていくことが必要である。 ・心の教育については、いじめ防止等に関する共通理解を深め、組織的対応への意識向上を図ることができた。また、生徒指導協議会や教育相談部会での情報共有をはじめ、SC、SSW、SSF、外部機関等と連携し、いじめの早期発見・早期対応に向けた取組を進めることができた。
2 学校教育目標	『信頼される人になる』

3 本年度の重点目標	① 知：子どもが「唐津の学びスタイル」の「期待感」「存在感」「効力感」「充実感」を感じながら学ぶ場面を増やし、主体的・対話的で深い学びの実現へ向けた授業改善を進める。 ② 徳：全職員での開発的生徒指導（発達支持的生徒指導）の取り組みと多様性を尊重する人権・同和教育を推進することで、子どもの豊かな心を育み、人間関係づくりを充実させる。 ③ 体：健康教育・安全教育を充実させる。また、教育相談体制及び支援を必要な生徒への学習支援を充実させる。
------------	--

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者	
(1)共通評価項目											
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践により、生徒が主体的に学習に取り組める授業を展開し、ICTの利活用や振り返りを行うことで、4つの感の特に「充実感」を感じてことを増やす。	・生徒アンケートで、「単元のゴールを意識して、一時間毎の授業に意欲的に取り組んでいる」の問いに、肯定的な回答の生徒の割合85%以上。 ・生徒アンケートで、「目標をもって家庭学習に取り組んでいる」の問いに、肯定的な回答の生徒の割合80%以上。	・生徒が目標をもって授業に取り組めるよう、単元のゴールを明確に示し、そのゴールに向けて1時間の授業のまとめや振り返りの充実を図り、自己の学習状況の把握を促す。 ・授業の振り返りや生徒の実態に応じた家庭学習の充実を通して、基礎・基本の定着を図る。 ・スタディ・ログを活用し、授業での学びを家庭学習やテスト学習につなげる手立て・指導の工夫を図る。	・		・		・	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任		
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動。	○学校評価の保護者および生徒アンケートで、校訓「感動・感謝・思いやり」を育む教育活動を行っている」と回答した保護者および生徒がそれぞれ85%以上。	・人権・同和教育を根幹におき、道徳教育や特別活動を充実させ、仲間づくりを推進し、豊かな心や多様性を尊重する心を育む教育を推進する。	・		・		・	・人権・同和教育担当者 ・道徳教育推進リーダー ・各学年主任		
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実。	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について、共通理解を行い、組織的対応ができている」と回答した教員90%以上。	・日常の生徒観察と教育相談アンケート(こころのとびら)を年10回実施。 ・SCやSSW、SSF、外部機関などとの連携強化を図る。 ・情報共有・対応・支援を行い、組織的に対応するとともに、全職員で情報共有を行い、職員のベクトルをそろえて指導・支援を行うようにする。	・		・		・	(主)生徒指導主事 (副)各学年主任		
	●児童生徒が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒85%以上。 ●「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした生徒85%以上。	・キャリア・パスポートを活用し、将来への見通しをもたせるとともに、生徒の良さを積極的に認める場をつくり自己肯定感を高める。 ・学校教育活動の中で、生徒に役割・出番・承認の場を増やす。 ・全ての教科等、学校行事等を通して、夢や目標について自ら考える場をつくり、見通しをもたせる。	・		・		・	(主)進路指導主事・教務主任 (副)学年主任、総合的な学習の時間担当		
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」。	●「健康に良い食事をしている」児童生徒80%以上。	・毎日の給食時の放送で、食に関する様々なトピックスを紹介する。 ・保健だよりを発行する。 ・食育の推進 ・学期に1回、保健部の生徒たちで「給食だより」を発行させる。	・		・		・	・給食指導担当 ・養護教諭 ・生徒指導主事		
	○「安全に関する資質・能力の育成」。	○「交通安全や防災を意識して生活している」生徒85%以上。	・学校安全計画に基づき、各教科、領域等による安全教育を計画的に推進する。 ・月に1回、交通安全及び防災に関する放送を行う。また、交通安全教室等を実施し交通ルールの理解を深め、安全な行動を意識させる。	・		・		・	・安全教育担当		
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減。	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上。	・定時退勤日の設定。 ・学校閉庁日の設定。 ・部活動休養日の設定。 ・校時の工夫・変更。 ・円滑な業務引継ぎ。 ・校務システムの有効活用。	・		・		・	・管理職		
●特別支援教育の充実	○特別支援教育の運営体制の充実と特別な支援を必要とする生徒への支援の充実。	○「特別な支援を必要とする生徒について、情報共有を行うことができる」と答えた職員100%。	・特別支援教育部会を隔週で行い、支援を必要とする生徒の情報共有を行い、支援の充実を図る。	・		・		・	・特別支援教育コーディネーター ・特別支援学級担任		
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目											
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
○不登校対策	○教育相談運営体制の充実と不登校生徒への支援拡大。	○昨年度より不登校生徒数を減少させることを目標とする。本項目は数値目標はすぐわない面もあるので、不登校対策委員会にて相互に質的評価を行う。	・SC、SSW、SSF等外部機関との連携を強化する。 ・ケース会議を工夫し有効な支援策を探る。 ・オンライン授業を実施する環境整備。	・		・		・	・教育相談担当 ・養護教諭		
○地域に開かれた学校づくり	○地域・保護者と連携した開かれた学校づくり。	○学校評価アンケートで、地域に開かれた学校づくりに取り組んでいる80%以上を目指す。	・育友会をはじめ、地域と連携した活動を行う。 ・いきいき学ぶからつ子育成事業を活用し、地域人材等を活用した教育を推進する。	・		・		・	・管理職 ・学年主任 ・進路指導主事 ・全職員		

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志と誇りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・ ・ ・
----------------	-------------